

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年2月27日
函館市立北中学校

1 本年度の重点教育目標

「夢や目標を持ち、自らの可能性を最大限に引き出す生徒の育成」

2 本年度の取組の重点

(1)質の高い教育活動の提供 (2)安心安全な場の提供 (3)地域とともに歩む学校 (4)教職員の力量を高める学校
(5)業務改善をめざす取組の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成 状況	改善の方策	自己評 価の適 切 さ	改善の 方策の 評 価	主な意見（改善策など）
①確かな 学力を育 む教育活 動の充実	主体的・対話的で深い学 びの実現を目指す授業改 善の工夫を図ることがで きたか	b	I C Tの活用により、授業改善が 進んだ。校内研修でもI C Tの活 用による授業の工夫について行 った。教員のさらなる使用の工夫 を図っていく。	B	B	・I C Tの活用ももちろ んであるが、社会活動の ことを考えるとアナログ の手法も大切である。
	基礎・基本の確実な定着 と思考力・判断力・表現 等を高める個に応じた指 導はできたか	b	家庭学習については、A Iドリ ルを使用する環境も整ったが、定 期的な取り組む生徒とほとんど していない生徒の差が大きい。基 礎基本に関わる学習を放課後だ けでなく、昼休み等を活用し進め ていく。	B	B	・放課後や昼休みを利用 しての学習会等は効果的 であると思う。
②豊かな 心を育む 教育活動 の充実	挨拶・礼儀・言葉遣いな どの基本的な生活態度の 育成を進めることができたか	b	日常的な指導も含め、継続的に指 導を進めていく。全校的な取組み について、校内だけではなく、校 外の講師の講話等なども交えて さらに指導を重ねていく。	B	B	・家庭との連携が最重要 である。 ・礼儀正しい子が多く、 昔のように夜遅く公園に いる子などはいない。
	豊かな体験活動を通した 人としての生き方、在り 方を考える教育活動の工 夫を図ることができたか	b	全学年を縦割活動での行事を 行う。今年度文化祭では全校合唱 にも取組んだ。さらなる教育活動 の工夫を進め、充実改善につなげ ていく。	B	A	・縦割り活動がとても良 い影響を与えていると考 える。
③学校力 向上のため の組織 体制の充 実	重点教育目標の実現を全 教職員の共通課題として 意識されたか	b	生徒評価をみると依然として学 習や生活について自ら計画を立て る項目に関して低い評価である。 まずは、校内研修等や各種研 修を通して「生徒に深い学び」の 授業改善を進めていく。	B	B	・自身の活動に誇りを持 つよう導くことが重要と 考える。 ・学習において二極化が 進んでいるように思う。 ・先生方はよいところを 伸ばそうとしている
④家庭・ 地域と連 携・協働 した教育 活動の充 実	コミュニティースクールの 取組を行い、家庭・地 域と一体となった学校運 営を推進できたか	a	今年度C Sコーディネーターを 中心に、本物の学びとして、地域 の方を講師として総合的な学習 の時間の充実を図ることができた。 さらに発展・充実させていく。	A	A	・マナー化だけは避ける よう情報共有が重要
	家庭・地域・学校が目指 す子ども像や教育目標、 学校運営の基本方針を共 有することができたか	a	地域公開授業や行事の一般公 開など、地域の学校として、情報 の収集や発信を行っている。特 に、北中ブログは日常の情報をき め細かくお伝えする活動を継続 していきたい。	A	A	・北中ブログはとても見 やすい

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。